

小学校 第5学年 音楽科 学習指導案

北海道旭川市立神楽小学校
教諭 三村 仁

題材名 アンサンブルのみりよく＜オーケストラ＞（3時間）

題材のねらい

- 組曲「カレリア」から「行進曲風に」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解する。
- 「行進曲風に」の楽器の音色や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。
- オーケストラの音色に親しむ学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

本時のねらい

「行進曲風に」を聴き、楽器の音色や響きを感じ取る。

指導時期

9月

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

【従来からの課題】

オーケストラの曲を扱う際、従来の紙面と鑑賞CDを組み合わせた指導では、児童が楽器の音色を聴き取ることが困難な場合が多かった。「トランペット」や「バイオリン」といった楽器の名称とその姿くらいの知識があったとしても、多くの児童にとっては、児童にとって身近なものとは言い難いからである。

そのため、指導者は、児童が楽器と音色を結び付けて捉えることができるよう、様々なコンテンツを準備する必要があった。

【指導者用デジタル教材への期待】

「指導者用デジタル教材」では、これまで指導者が工夫して準備してきたコンテンツが充実しており、上記のような困難さを解決しながら授業を進めることが期待できる。

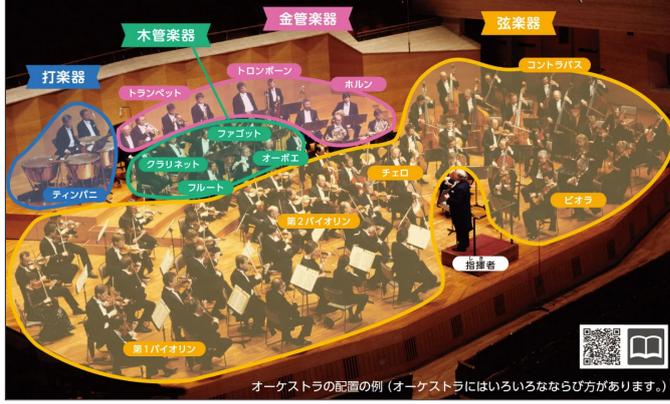
「オーケストラで使用される楽器の例」というコンテンツでは、主な楽器ごとに、演奏している姿と音色を確認できる。

組曲「カレリア」から「行進曲風に」の動画コンテンツでは、演奏楽器がわかるように譜面が表示され、旋律などが捉えやすくなっている。

このような充実したコンテンツは、題材のねらいを達成するための手立てとしての活用が期待できる。

本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 「指導用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● オークストラの編成について知る。 ● 『アラ ホーンパイプ』や『ノルウェー舞曲 第2番』を聴き、第4学年で学習したことを想起しながら、登場する楽器や、どのように演奏しているのかを確認する。 ● p.31-32を提示し、オーケストラ演奏について、確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ● p.33「オーケストラの配置の例」を提示し、オーケストラ演奏のステージの使い方を確認する。 ● これから聴く曲も、オーケストラ演奏であることを知らせる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 楽器の配置について確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ● 「まなびリンク」も活用する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 曲の雰囲気やその移り変わりを感じ取って聴いたり、音楽全体がどのように形づくられているのかを捉えて聴いたりする。 ● 「行進曲風に」を一斉に聴き、その雰囲気からどのような曲なのかを考えたり、曲名を予想したりする。 ● ③：はずむような感じがする曲だった。 ● ③：次々といろいろな楽器が登場した。 ● ③：同じようなメロディーが何回も出てきた。 ● 聴こえてきた楽器と音色を確認する。 	 <ul style="list-style-type: none"> ● この段階では、児童には画面は見せず、音声のみを再生する。  <ul style="list-style-type: none"> ● 「まなびリンク」を活用しながら、主な楽器とその音色を確認していく。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の構成（アの旋律→イの旋律→ア→イ→ア→終わりの部分）と楽器の音色を確認する。 ●アとイの旋律が聴こえたら手を挙げる。（アは左手、イは右手など） ●聴き取ったり感じ取ったりしたことを学習カードに記述する。 ◎：最初の方はバイオリンの音色が聴こえてきたけど、楽器が変わっていった。 ◎：ずっと、低音で鳴っている音があった。 	 <p>主なせんりつ 7の部分のせんりつ 1の部分のせんりつ (原曲はイ長調)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アとイの旋律を確認した上で、「行進曲風に」を通して聴く。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の活動を振り返り、聴き取ったり感じ取ったりしたことを共有する。 ●学習カードに記述したことをもとに、聴き取ったり、感じ取ったりしたことを全体で交流する。 ◎：曲名は予想できたけど、本当の曲名が知りたい。 ◎：全部で何種類の楽器が登場するのだろう。 ●最後に、曲名を確認するとともに、「まなびリンク」の動画を視聴し、登場する楽器を確認する。 	 <p>組曲「カレリア」から「行進曲風に」 32ページ</p> <p>楽器: ヴィオラ、フルート、オーボエ、クラリネット、トロンボーン、コントラバス、ドラム、シンバル</p>

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

【指導者側のメリット】

これまで自作のコンテンツを準備する必要があったが、指導に必要なコンテンツがある程度揃っていることにより、授業の準備時間が大幅に短縮できる。また、児童と同じ教科書の紙面がベースになっていることから、直感的に操作しやすい。コンテンツ切替時のタイムラグが少ないことは、スムーズな授業展開につながる。

一方、教科書を使うタイミングは、授業のねらいに合わせて、様々な方法が考えられる。今回の展開では、曲名を予想することも、学習活動の一つである。導入時から全てを提示するのではなく、必要なタイミングで提示したり、一部をマスキングして提示したりするなどの工夫は必要である。

【学習者側のメリット】

音楽の学習に必要な知識は、楽器の演奏経験などに関わりがある。本時で活用するコンテンツは、鑑賞する上で必要な知識を補いながら学習を進めることができるようになっている。特に、「まなびリンク」の譜面付きの演奏動画は、本題材で取り扱う音楽を形づくっている要素の「楽器の音色」と「変化」を捉えやすくなっている。